

通テ本署ハ仕補衛ノ和平運動ニ新政府樹立工作ノ経過ヲ明ニス
ルト共ニ對任工作ガ進展政府ノ訓令ニ作用スル事略タル性質ヲ伴
フモノナルコト及近衛内閣以來三代ノ内閣ニ直リ行ハレタル最高
ノ國策ナル所以ヲ顯得セシムル點ニテ作成セルモノニシテ其ノ
内容ノ一部ハ既ニ世間ニ明ニセラレタル點モ有之次第ナルガ故ノ
工作ガ本文書ノ如キ程度ノ下ニ披露セラルトキハ汪敬儀ノ自主
獨立性ヲ破壞シ所謂傀儡政府ナリトノ評ヲ招クコトトナルベキヲ
以テ之ヲ「機密」取扱トセル處ニ付右側會々ニテ可然側措置相成
度

（日本標準規格 B.5） （書山納）

拓務省

タイプライター用紙半張

昭和十五年一月十五日
行政課長 事務官
大國官房文書課長 江口 義
事務局 事務官
管理局長 司計課長
管理局長 副島 勝 股
警務課長 事務官
支那新中央政府成立ノ機密機要ニ關スル件
舊年十二月二十三日附官文第五號ヲ以テ支那新中央政府成立ニ關ス
ル機密指導要綱ヲ送付致シ置キタル處本件與前指導ニ當リ指導官ノ
機密ノ旨ミトシテ前通印刷物作成セラレタルニ付一部送付ス

（日本標準規格 B.5） （書山納）

拓務省

別紙添附
タイプライター用紙半張

極秘

昭和十四年十二月
内閣情報部

支那新中央政府成立ノ経緯概要

支那新中央政府成立ノ経緯概要

(不許複製)

一、汪精衛重慶脱出迄

1. 汪精衛運動ノ發端

汪精衛運動ハ昭和十三年春支那事變ガ本格的段階ニ入レル當時南京政府外交部亞洲司長高宗武、蔣介石副秘書長周佛海、江寧縣長梅子平等ガ主トシテ中堅文武官層ヲ糾合シ、日本トノ和平提携ヲ畫策セルニ端ヲ發ス。

2. 初期ノ進展狀況

イ、本運動ハ日本ト提携シテ新東亞ヲ建設スルヲ目的トシ、之ガ爲共產主義、抗日主義ヲ排除シ親目的ノ更生國民黨政權ヲ樹立シテ先ツ日本トノ和平ヲ具現スルヲ綱領トセルモノニシテ、潛行的ニ蔣政權内部ノ要人ニ働きかけ、又四川雲南等ノ軍閥トモ密カニ連絡スル等逐次ニ同志ヲ増加セリ。
ロ、一方我方ハ昭和十三年夏以來、主トシテ香港及上海ニ於テ汪側代表者ニ就キ其ノ誠意ト熱意トヲ打診シ居タル處、十一月中旬我方ハ日本ト提携シ新東亞ヲ再建ニ邁進セントスル汪側ノ決意ヲ確

認セルヲ以テ、帝國亦汪ノ運動ニ對シ支援ヲ吝マザル旨ヲ明カニシ、次デ日支新關係ノ調整ニ關シ「日華兩國ハ共產主義ヲ排撃スルト共ニ、侵略的諸勢力ヨリ東亞ヲ解放シ、東亞新秩序建設ノ共同理想ヲ實現センガ爲相互ニ公正ナル關係ニ於テ軍事、政治、經濟、文化、教育等ノ諸關係ヲ律シ善隣友好、協同防共、經濟提携ノ實ヲ舉ゲ強固ニ結合ス」トノ趣旨ヲ申合セタリ。

二、汪精衛ノ重慶脱出ト河内ニ於ケル工作

1. 重慶脱出

イ、一方重慶ニ於テハ本運動ノ進展ニ伴ヒ蔣側ノ壓迫ハ逐次ニ増加シ、汪一派ハ漸次ニ身邊ノ危險ヲ感ズルニ至レルヲ以テ、工作ノ中樞關係者ハ十二月初旬以來工作據點ヲ他ニ移スベク實際的準備行動ヲ開始シ、首領汪精衛ハ十二月十八日重慶ヲ脱出シ、昆明ヲ經テ河内ニ到着茲ニ本運動ハ表面化スルニ至レリ。

ロ、偶、近衛首相ハ十二月二十二日談話ノ形式ヲ以テ日支新關係調整ニ關スル政府ノ方針ヲ中外ニ闡明ス。

2. 河内ニ於ケル工作

イ、汪精衛ハ十二月二十八日重慶政府ニ對シ對日和平ニ關スル建言ヲ送付シ、次デ十二月三十日反共和平ニ關スル聲明ヲ發表スルト共ニ前記和平建言ヲ公開シ其ノ主張ヲ中外ニ明カニセリ。

ロ、爾來汪精衛ハ引續キ河内ニ在リテ數次ニ亘リ聲明ヲ發シ其ノ立場ヲ愈々闡明スルト共ニ重慶、香港、上海等各地ノ同志ヲ指揮シ工作ノ進展ニ腐心セリ。

三、汪精衛河内脱出ヨリ來朝迄

1. 河内脱出

然ルニ河内ニ於テモ重慶側ノ壓迫ハ日増ニ熾烈ニシテ、腹心曾仲鳴暗殺セララル等汪等ノ安住ヲ許サザルモノアルニ至リ、遂ニ四月二十五日竊ニ河内ヲ脱出シ、五月八日漸ク上海ニ到着一先ヅ租界外我軍ノ警備區域内ニ居ヲ定メ、其ノ同志亦逐次上海ニ集合セリ。

2. 汪精衛ノ來朝

汪ハ上海到着後、今後ノ工作ハ日本ト緊密ニ連繫シ其ノ支持下ニ堂々施策スルノ外其ノ所信ヲ實現スルコト不可能ナリトシ、之ガ爲汪自ラ來朝シ日本側中央部ト直接會見シテ其ノ所信ヲ披瀝スルノ必要ヲ認メ、五月三十一日高宗武、周佛海、梅子平等ノ幕僚ヲ從ヘ入京ス。

3. 來朝中の行動

汪ノ滞在約二十日、其ノ間平沼首相、近衛前首相、陸海軍、外務大藏ノ各相ト會談シタル結果、彼ハ東亞新秩序建設ニ關シ我方ノ意ヲ存スル所ヲ十分諒解シ、誠意ヲ披瀝シテ中央政府樹立メ工作ニ盡瘁スルヲ誓フト共ニ、各大臣ノ鼓舞激勵ニ感激シテ工作ノ前途ニ益、大ナル希望ヲ抱キツツ、六月十八日退京セリ

四

四、歸國ヨリ往廣迄

1. 臨時政府、維新政府首腦者トノ會談

汪精衛ハ歸國ノ途次天津ニ於テ王克敏等ノ臨時政府要人ト、上海ニ於テ梁鴻志等ノ維新政府要人ト時局ノ收拾、中央政權ノ樹立ニ關シ會談シ其ノ協力ヲ懇請シタル所、何レモ汪ノ真意ヲ諒得シ協力シテ時局ニ對處スベキ旨ヲ明カニセリ。

2. 上海ニ於ケル工作ノ進展

一方上海ニ於テハ汪派ハ其ノ根據ヲ共同租界内ニ置クコトニ成功シ、更ニ其ノ工作ヲ公開推進スルガ爲中華日報ヲ復刊シ、或ハ「ラヂオ」ニヨリ其所信ヲ闡明スル等先ヅ活潑ナル言論戰ヲ展開セリ。

3. 廣東訪問

汪精衛ハ續イテ廣東ニ赴キ、南支派遣軍指導援助ノ下ニ南支方面ノ工作特ニ軍事工作ニ從事シ、八月十四日離廣上海ニ歸還ス

五、國民黨全國代表大會ノ開催

1. 汪精衛ハ八月二十八日上海共同租界内ニ於テ中國國民黨第六次全國代表大會（六次大會）ヲ開催セリ。大會ハ（一）反共ヲ以テ國民黨ノ基本政策トナスコト（二）日支關係ヲ根本的ニ調整シ國交ヲ恢復スルコト（三）國民黨ノ機構ヲ改正シテ蔣介石ノ國民黨總裁ヲ罷免シテ汪精衛ヲ中央執行委員會主席トスルコト（四）重慶ニ於ケル一切ノ國民黨機構ノ解散ヲ命スルコト等ヲ可決セリ。

2. 次デ九月五日六次大會第一次中央執行監察委員全體會議（一中全會）ヲ開催シ、黨内部ノ組織及宣傳其ノ他ニ關スル件ヲ決定シ、各黨各派ト協力シテ新中央政府ノ樹立ヲ議スベキ中央政治會議ニ對スル國民黨側トシテノ準備ヲ討議セリ。

3. スクシテ國民黨自體ニ對スル工作ハ六次大會及一中全會ヲ以テ一應ノ段落ヲ告ゲ、國民黨ハ茲ニ純正國民黨トシテ改組セラレ、新中央政權構成ノ有力ナル一母體トシテ更生スルニ至リ、爾來汪ハ中

五

六
中央政府樹立工作ノ圓滑ナル進展ヲ圖ルト共ニ、更ニ該政府ヲ強力ナラシムル爲左ノ工作ニ全力ヲ傾注セリ。

- (イ) 臨時、維新兩政府トノ協力合作ヲ圓滑ナラシムル工作
- (ロ) 吳佩孚、中國青年黨、國家社會黨等各黨各派ニ對スル工作
- (ハ) 各政黨ニ屬セザル政客、財閥、教育家等無黨無派ニ對スル工作
- (ニ) 重慶側軍閥ノ切崩ヲ目的トスル軍事工作

六、爾後ニ於ケル工作進展ノ狀況

1. 臨時政府及維新政府ニ對シテハ九月十九日ヨリ三日間ニ亘リ汪ハ南京ニ於テ王克敏、梁鴻志ト會同シ、中央政治會議開催ニ關シ具體的ニ協議セル結果、三者ハ愈々緊密ニ協力シ新中央政府樹立ニ邁進スルノ決意ヲ固メタリ。
2. 各黨各派、無黨無派ニ對スル工作ハ概ネ順調ナル進展ヲ示シツツアリ。
3. 軍事工作ハ反蔣の傾向アル非中央軍ニ指向シ目下銳意促進中ナリ。
4. 尙汪精衛ハ阿部内閣更迭ニ當リ我が政府要路ト連絡打合ノ爲十月二日周佛海ヲ東京ニ派遣セリ。周

佛海ハ連日政府要人ト會談シ帝國政府不動ノ決意ヲ再確認シテ歸還セリ。

因ニ帝國政府ニ於テハ昭和十三年十一月三十日廟議決定ノ方針ニ基キ右汪精衛側運動ニ對處シテ所要ノ指導方策竝新中央政府ニ對スル帝國ノ政策ヲ決定シテ、汪側竝既成政府等ヲ指導スルト共ニ、新政權ノ樹立竝ニ其ノ發達強化ヲ圖ル爲目下折衝中ナリ。

極秘

2656

新中央政府外交指導方針要綱

IMT 384

31

2656

第一方 針

新中央政府外交指導方針要綱

(昭和十五、三九公使機關)

新中央政府ヲシテ先ツ對日關係ニ於テハ客年末日支工作員間申合ノ
内容ニ則リ之ヲ具現ノ歩ヲ進メツツ正式國交調整ノ基本態勢ヲ整備
セシメ帝國ニ於テ諸般ノ情勢ヲ見極メタル上自主的ニ決定スル適當
ノ時期ニ帝國政府トノ間ニ正式國交調整交渉ニ入ラシメ且日滿支三
國ノ緊密ナル提携合作ヲ誘致セシムルト共ニ第三國關係ニ於テハ各
友邦ノ正當ナル權益ヲ尊重シ友誼ヲ増進スルコトニ依リ其ノ國際的
地位ヲ培養強化スル一方重慶政府ト第三國トノ離間ニ資セシムルモ
ノトス
國權ノ回復ニ付テハ合法的漸進主義ニ依ラシム
第三要領
一、對日關係

IMT 384

32

- 1、差當り客年末日支工作員間申合ノ内容ニ則リ之カ具現ノ歩ヲ進メツツ正式國交調整ノ基本態勢ノ整備ニ専心セシム
- 2、右申合ヲ基礎トスル新中央政府ト帝國政府トノ間ノ正式國交調整交渉開始ノ時期ハ新中央政府ノ發育重慶政府今後ノ態度其ノ他諸般ノ情勢ヲ帝國ニ於テ見極メタル上之ヲ決定セシム
- 3、支那ノ輿論ヲ指導シ成ルヘク速ニ日滿支三國ノ緊密ナル提携合作ノ空氣ヲ醸成セシム

ニ第三國關係

- 1、既存ノ國際義務ハ國際法及通例ノ國際慣例ニ基キ之ヲ尊重セシメ且右趣旨ヲ聲明セシム
- 2、重慶政府カ事變發生以來新ニ締結セル契約等ハ差當リ之ヲ積極的ニ否認セサル態度ヲ採ラシメ適當ノ時期ニ之カ調整ヲ期セシム
- 3、既存ノ外債ハ主權上之ヲ認メ且特ニ擔保確實ナルモノニ付テ

ハ成ルヘク速ニ部分的ナリトモ之カ支拂ヲ開始セシム但シ財政上支拂ノ困難又ハ不可能ナルモノニ付テハ外國側ト協議ノ上適當ノ調整方法ヲ講セシム

- 4、既存ノ借款契約ニシテ政治的色彩濃厚ナルモノニ付テハ逐次合法の手續ニ依リ之カ調整ヲ圖ラシム

- 5、日支合辦事業ヲ含ム既設及新規ノ企業ニ對シ第三國側ノ投資ヲ誘致スル如ク施策セシメ且第三國側ノ單獨又ハ支那側若ハ日本側トノ合辦ニ依ル企業ノ設立經營ヲ許容セシム但シ政治的色彩アル企業ニ付第三國側カ經營上ノ優越的地位ヲ占ムルコトナカラシム

- 6、關稅上ノ差別待遇殊ニ特惠關稅ノ設定ヲ爲サシメス
- 7、一般ニ通商上ノ均等待遇ヲ認メ爲替管理貿易管理ヲ實施スル場合ニ於テモ差別待遇ヲ爲サシメス
- 8、通貨安定ニ付第三國側ノ協力ヲ得ル如ク施策セシムルモ支那

- コトニ重點ヲ置キ當分對外的ニハ第三國トノ間ニ防共協定ノ締結又ハ參加ノ措置ヲ執ラシメス
- 14、蘇聯ノ重慶政府援助打切りヲ施策セシメ且現行蘇支不可侵條約ハ之ヲ支那領土内ニ於ケル主權確立ニ利用セシム
- 15、第三國關係ニ付テハ一般ニ帝國ノ對第三國外交方針ト同一歩調ヲ執ラシム

備考、本要綱ハ當面ノ指導方針要領ヲ定メタルモノニシテ今後ノ各段階ニ於ケル方針ハ逐次之ヲ策定ス

- ノ通貨金融ヲ第三國側ノ支配下ニ置カサル様留意セシム
- 9、第三國側ノ布教教育病院經營等ノ文化的活動ニ關シテハ新中央政府ノ基本政綱ニ反セサル限り之ヲ許容セシム
- 10、租界、公使館區域、治外法權、內水航行權等ノ不平等條約關係ノ清算其ノ他國權回收ニ付テハ合法的漸進主義ニ依ラシメ暫ク急激ナル發動ヲ爲サシメス
- 11、海關、鹽務、郵政其ノ他ノ具體的涉外事項ノ處理ニ關シテハ別紙「海關鹽務郵政等涉外事項處理要領」ニ依ラシム
- 12、歐米依存政策ヲ根本的ニ清算セシメ東亞ノ自主性及日滿支ノ連帶性ヲ自覺セシムル意味ニ於テ九國條約廢棄及國際聯盟脫退ノ基本觀念ヲ内部的ニ確立セシム但シ之カ實施ニ付テハ差當リ觸レズ且將來時機到來ノ場合ニ於テモ之カ實施ニ付テハ帝國ト協議ノ上爲サシムルモノトス
- 13、反共政策ハ差當リ專ラ國內ニ於ケル反共措置ヲ徹底セシムル

2656

東亞局長
機密第一〇二號

第一課

昭和十五年三月六日

在蘇州

副領事 市川 修三

別紙添付

秘書文
15.3.13
受收

15.3.13
15.3.13

外務大臣 有田 八郎 殿

新中央政府ノ内容ニ關スル件

本件ニ關シテハ當地日支各機關ニ於テモ異常ナル關心ヲ有シ種々憶
説行ハレ居リシトコロ軍報道部ヨリ當地駐在員ニ達セル内報ニ依レ
ハ別添ノ通りニ付何等御参考迄報告ス

追テ本件ハ既ニ御熟知ノコトトハ存スルモ軍側カ現地派遣員ニ迄

2656

内報シ居ル現況ニ付爲念

本信寫送付先 上海 南京

IMT 384

389

IMT 384

388

REEL No. A-0722

0014

アジア歴史資料センター

極秘

昭和15 五一二〇四 暗

北京 二月十一日 後發
本省 十一日夜着

亞

有田外務大臣

藤井參事官

第一一二號 部外極秘

閩錫山歸順工作ニ關シ十日大倉組林ノ原田ヘノ内話左ノ通り

、本月初當地ニ於テ開催ノ參謀長會議ニ出席セル山西部隊田島參謀
長ハ自分（林）ニ對シ依然對峙中ノ閩錫山軍ニ對シ適當ノ方法ヲ
以テ歸順ニ導キタキ處何等妙案ナキモノナリヤト内密相談アリタ
ルニ付私案トシテ閩ニ對スル直接ノ和平工作ハ從來ノ經緯ニモ鑑
ミ未タ其ノ時機ニアラサルニ付右ハ第一段トシテ差當リ閩治下ノ
人民ヨリ手懐ケ漸次閩ニ及ホスヲ可トスヘク即チ閩治下ニダブツ

電信寫

キ居ル難數其ノ他ノ物資ヲ當方占領地區内ニテ輸銀券ヲ以テ高價
ニ買付ケ右輸銀券ハ其ノ儘地區内確保ニ止メ置キ右ヲ以テ先方ニ
必要ナル物資ヲ購入セシメ相互物資ノ交流ヲ計ル一方山西省政府
側ニテ回收セル舊山西票ヲモ適宜利用スルコト等ニ依リ經濟的ニ
物及人ノ交流ヲ計ラシメ以テ地區内民心ヲ我方ニ引付ケ現在ノ
着狀態ヲ緩和セシメタル上第二段トシテ閩ニ有スル政治工作ニ
ラントスルモノニシテ右ニハ日本側ハ介入セス鉤迄山西人ヲシテ
當ラシメントスル案ヲ開陳セリ

、右ニ對シ同參謀長ハ極メテ贊意ヲ表シ東京中ノ各部隊交謀長及方
面軍司令部參謀ヲ交ヘ正式會議ニ附シタル結果愈本案實施ノコト
ニ決定ヲ見タル次第ニテ自分（林）ハ司令部囑託ノ資格ニテ

極秘

電信寫

日中太原ニ赴キ之ニ着手ノコトナレリ尙右進行經過ハ追テ在太原白井領事ヲ通シ貴官ニ内報スヘキ虞軍備ニ於テハ本案ニ對シテ效ヲ收ムルコトトモナレハ之ヲ他地方ニモ及ホシ本格的ノ宣撫工作ニ乗出サント考慮シ居ル次第ナリ云々
上海公使、南京、漢口、太原ニ轉電セリ

ヲ希望シ居リ後者ニ統一セル、コトニルカモ知レナイ
又華北ニ於テ五色旗ヲ新国会様トシテ採用セルコトニ妨ゲナイガ
政務委員会様トシテ用ヒルコトハ誤メナイ
三 中央政府ノ機構
(一) 五院 行政立法、司法、監察、考試院
(二) 行政院内ノ各科 財政部、外交部、軍政部、海軍部、財政
部、農工部、工部部、教育部、交通部、鐵道部、司法
行政部、警政部、社會部、宣傳部、僑務委員會、既于
內政部長兼警務部長ノ分割、軍政部、海軍部ノ分割
交通部、鐵道部、新社會宣傳兩部ヲ置ク、コトニナ
タスナリ
四 軍事機構
軍事委員會ヲ置カス、國防委員會ヲ設ケテ其ノ下ニ參謀
本部、軍事訓練委員會、軍事參謀院ノ三院ヲオク

一 中央政治會議及中央政府樹立ノ時期
還部準備ニ尚手同取リ中央政治會議ハドウシテ三月十
日ニキニナル模様、又中央政府樹立ハ中央政府樹立後、あひの
ニ断行ノ予定ナルモ其間ドウシテモ一ヶ月ハカハル模様
中央政府樹立トノ間ニ第八回聯合委員會ガ開催サレ、聯
合委員會解散宣言ガナサレハ答テアル、又維新政府解
消ス、如キモノガ行ワルカ、否カハ未定テアルガ、政府解消ス
行ワル場合ハ政府拘捕、廢憲、廢カ行ワル、事ニナツテアル
中央政治會議ノ会場ハ南京、鶴鳴寺ノ下、考試院又ハ
東亞俱樂部或ハ國民大會堂ナル
二 中央政府ノ名稱ハ民心把握ノ爲、青天白日滿地紅ヲ採用
スルモ日本側ノ諒合ト基キ必要ノ期間、其ノ上、部ニ和平建國或
ハ反共和平等ト明瞭ニ表示セ、三角大ノ當地布行ヲ附エ、コ
トニナツテアルガ最近注例ヨリ、反共和平、和平建國ノ文字ノ方

國防軍ハ國防委員会ニ屬シ差當リ和平建國方ニ力ミ方ニ
 才四名集團軍ヲ以テ之ニ其ノ他ニ後衛軍ヲオキ華北
 精總司令部ハ華北政務委員會ニ屬セシメ之ヲ揚子江下流
 綏靖總司令部ヲ軍政部、警政部、國防委員會ノ所レニ
 屬セシムル目下研索中 高理在上海ニ組織セシ中央陸
 軍官訓練團、他南京ノ後衛軍官學校ヲ中央陸軍之
 官學校ニ組織、武漢、廣東ニ分校ヲ設置スル事多シ
 五華北政務委員會ノ組織
 華北政務委員會ハ華北政務委員會條例ニ基キ國民政
 府ニ直屬(各院ト合稱)シ七總署三廳一司令部ヲ設ケル、
 內務總署、財務總署、教育總署、實業總署、治安總署、
 建設總署、政務廳、華北廉價總務總司令部、
 總署ノ最高地位ハ督弁ト稱ス
 六中央政治會議委員

中央政治會議委員ハ三十名 汪主席ヲ含ム、大體ノ類
 般ニ左ノ通り
 (一)國民黨(十名)
 周佛海、梅思平、林伯生、丁惟汾、褚民誼、陳公博、陳健君、
 李聖五、劉柳芳、葉楚傖、
 (二)臨時政府(五名)
 王克敏、王揖唐、朱深、齊燮元、湯爾和
 (三)維新政府(五名)
 梁鴻志、湯宗亮、陳羣、任援道、高冠吾、
 (四)蒙古聯合自治政府(一名)
 季守信、千昌卿、
 五、國民社會黨(二名)
 陸鼎儀、諸青來、
 六、中國青年黨

張英華 邵木公
 七、重慶、重慶（四名）
 趙正平、岑佐廣、趙和庭、楊毓均
 新中國青年黨、中國社會黨、大民會、新民會、興亞連
 國道、新華部、吳佩孚派、武漢派等各派代表
 者、認、大、ス、エ、ト、リ、タ、リ、
 八、中央政府、顏福慶
 行政院長 汪精衛、副院長 周佛海、立法院長 陳
 公博有力、行政院秘書長 陳春聲、司法院長 梁鴻志
 考試院長 溫宗堯、監察院長 王揖唐、
 以上大體、三、次、定、以上外、趙正平、諸青平、ハ、何、レ、カ、
 副院長、就、任、ノ、事、迄、ナ、リ、
 內政部長 陳犀、外交部長 汪精衛、兼任、
 同、次、長、夏、奇、峰、相、力、

軍政部長、及海軍部長ハ、當、分、缺、員、ト、ル、模、梅、
 財政部長 周佛海
 全、次、長、陳、之、確、（維新政府財政部長決定）
 農林部、及工商部、汪、側、テ、ハ、實、業、部、長、ト、シ、テ、王、蔭、昌、ヲ、
 希望、シ、タ、カ、臨時政府側、カラ、ハ、周、家、彦、ヲ、推、薦、シ、テ、来、タ、
 ノ、テ、同、下、考、慮、中、臨時政府側、ハ、僅、ク、ス、テ、周、家、彦、一、本、推、ダ、
 ール、場合、ハ、全、氏、ヲ、但、ノ、部、署、ニ、置、シ、工、商、部、長、ト、梅、恩、平、カ、
 就、任、ス、ル、模、梅、
 教育部長、趙、正、平、相、力、傳、説、セ、マ、ツ、タ、カ、趙、正、平、ハ、何、レ、カ、
 副院長ニ就任、模、梅、
 交通部、及、鐵、道、部、交通部長トシ、テ、ハ、諸、青、平、最、モ、有、力、
 ナ、リ、タ、カ、全、氏、ハ、趙、正、平、全、權、何、レ、カ、副、院、長、ニ、就、任、ノ、模、梅、
 司、法、行、政、部、長、臨時政府側、ヲ、張、考、移、ヲ、推、薦、シ、テ、来、タ、
 カ、自、下、考、慮、中、

2656

警政部及社会部社会部长ニ丁凱印就任決定、警務部長
ニ李人祥決定
宣傳部長 林柏生
同次長 孔憲鎰 (維新政社宣傳局長有力)
尚軍事方面ニ八鄰邦芳が軍事參議院長ニ任職宣か
軍事參議兼揚子江下流綏靖總司令ニ有喜元が率北
綏靖總司令兼治安總署督弁ニ就任決定
軍事訓練院ハ中央軍官訓練團教育長兼教務長劉培
緒等力重留地位ニ就クモト見エル
又國防軍ノ現在ノ配置左ノ如ク
和平建國第一集團軍 (京滬台線)
〃 〃 〃 (福建) 軍長 董仁祥
〃 〃 〃 (蘇北) 〃 唐 璣
〃 〃 〃 (河南) 〃 胡毓坤

IMT 384

396

2656

八、中央党部其他現在ノ陳畧
(一) 中国国民党 中央党部
中央執行委員會主席 汪精衛
秘書長 褚民誼
副秘書長 陳春圃 羅石純
組織部長 梅思平
組織副部長 戴平天 朱璣
宣傳部長代理 林伯生
宣傳全副部長 林伯生、周化人
社会部長 丁凱印
全副部長 王愛雲、顧繼武
(二) 國民政府還都準備委員會
委員長 褚民誼
副委員長 陳群

IMT 384

397

2656

尚純正国民党ト呼ブトハ如何ニモ卑下シタ様ナ印象
ヲ興ヘルノデ 其ナホニ「中国国民党」ト書ク 方針デ
アル

以

IMT 384

399

2656

伍 股 主 任	拾 股 主 任	交 通 股 主 任	修 理 配 置 股 主 任	接 收 股 主 任	總 務 股 主 任
------------------	------------------	-----------------------	---------------------------------	-----------------------	-----------------------

褚民誼
蔡培火
羅君瑞
丁一印
陳群
佐煥道

参考事項

班級：中文

國民政府ハ旧國民政府ノ 法統ヲ繼承シテ
改組
豫都
スルノ
テアルカラ 新中央政府ナル名称ハ當ラナイ
又中央政府ヲアル以上、之ヲ政權ト呼フコトモ不當デアリ 正シク
中央政府トシテ賞ヒタイ。
又金慶政府軍隊ヲ指シテ 竟軍トシテ 誠克反共等ノ
スローガンニ由ル時ハ誤解ヲ起ク恒レガアルカラ 止メテ賞ヒタイ

IMT 384

30 398

極秘

電信寫

昭和16

五一八九四

暗

北京

三月五日

午後發
本省
五日夜着

野

有田外務大臣

藤井參事官

第一九〇號（部外絶對極秘）

往電第一一二號ニ添シ

二月十八日山西ニ赴キ一日歸來セル大倉組林ノ四日原田ニ對スル内
語左ノ通り

一、先ツ太原ニ於テ徵收部隊及省公署ノ諒解ヲ取付ケタル上省公署員
ヲ伴ヒ臨汾ニ乘込ミ、道尹公署ニ於テ梁道尹縣長農會會長商會
會長、警察署長等支那側有力官民代表者ヲ召集田島參謀長陪席ノ
下ニ座談會ヲ開催シ支那側ノ見解ナキ意見ヲ開陳セシメタル處支

那側ヨリ（一）通貨ニ對スル不滿（臨汾城內ハ聯銀券ヲ外ハ山西票流
通シ居ル處日本憲兵ハ城門ニ於テ山西票所持者ニ對シテ多難ナル
ハ沒收シ少額ナルハ之ヲ破棄ス）（四）晉南ノ如キ穀物生産地ヨリ他
地ニ一向出廻ハラサルハ日本側ノ許可制ニ起因ス（ハ）其ノ他日本側
ノ通リ方ニ對スル非難點出セリ

二、右ヲ聽取セル田島參謀長ハ從來ノ宣撫工作ノ失敗ナリシニ一驚ノ
結果支那側ノ民意ニ基キ宣撫工作ニ乗出スコトトナリ次テ行ハレ
タル日支官憲合同會議ニ於テ拙案（林案）（買辦往電御參照）實
施ノコトニ決定ヲ見タルカ右便法トシテ城内外ニ在ル休業中ノ雜
穀問屋ヲ開店シ地方ヨリノ雜穀ヲ聯銀券ヲ以テ購入右代價ハ同間
屋ニ保管ノ上城內ノ雜貨購入ノ決済ニ充テ物資ノ交流ヲ圖リ又沒

極秘

電信寫

收セル山西票（發行額三千萬圓中一千萬元ハ今豫閩治下ニ交流シ
ツツアリ）ヲ以テ閩治下ニダブ付キ居ル雜穀ヲ購入スルコトトセ
リ右ニ依リ當方ハ反故ニモ等シキ舊法幣ヲ利用シテ物ヲ得又先方
ニ對シテハ多大ノ好感ヲ與フル次第ナリ

三、一方閩ニ對スル政治工作ハ第二段トシ差當リハ閩ノ甥（在大原）
ヲ秋林節ニ派シ閩ニ我方ノ和平救國ノ眞意ヲ傳フルト共ニ人民救
濟ノ爲本案ニ協助方説示セシムルコトニ手配ヲ了セリ本案ハ極メ
テ圓滿ニ各方面ノ贊同ノ下ニ急上ノ如キ實行ニ移レルカ自分（林）
ハ軍ノ要望モアリ更ニ近ク入晉運城及晉北各地ニ同様工作ニ從事
スル筈

上海公使、南京、大原、漢口へ轉電セリ

極秘

2656

昭和18 六六九一 暗 羅馬 三月十三日後發
本省 十四日前着

有田外務大臣

天羽大使

第二二六號（館長符號扱）

貴電第五二號及往電第一七八號ニ關シ（新中央政府承認問題ニ關スル我方態度等ノ件）

往電第二二四號會見ノ際本使ハ貴電合第四八號及合第四八〇號ニ基キ支那新中央政府成立ノ狀態ヲ説明シタル上伊國政府カ東亞ノ新事態ニ即應シテ新政府ニ對シ同情ヲ表セラレタルハ日本政府ノ「アブリシエイト」スル所ナリト述ヘ新政府ノ承認ニ對シテハ我方ト聯絡ヲ取ラレンコトヲ希望シタルニ「チ」ハ伊太利ハ日本ハ支那ニ於テ

電信寫

2656

唯一（「エキスクルーション」）ノ立場ニアルコトヲ充分認識スルカ故ニ新政府ニ對スル承認ニ對シテハ萬事日本政府ト步調ヲ一ニスヘク聯絡ヲトルヘキ旨回答セリ
英、獨、米、西ヘ轉電セリ

1MT 384

16

1MT 384

15

REEL No. A-0722

0024

アジア歴史資料センター

IWT 384

2

2656

電信寫

IWT 384

1

2656

極秘

2656

昭和 七八八八 (略)

南京 三月二十七日午後
本署 二十七日午後

柳井 備事

有田 外務大臣

第九三號 (極秘、至急)

貴電第六五號ニ關シ (新中央政府樹立ニ關スル件)

汪側ニ於テハ三十日發表ノ邊都直言中ニ「一七ノ友邦ニ對シテ
平和外交ノ方針ニ基キ信義ヲ踐シ詭ヲ修メ以テ其ノ友好關係
ヲ増進ス」トノ一句ヲ入ルル豫定ナルカ其ノ他別ニ第三國關係
ニ關スル聲明ノ發表方ニ付テハ何等決定シ居ラス目下考慮中ナ
リ

三別電末段「更生新支那亦其ノ方途ヲ一ニスヘキハ帝國政府ノ確

信スル所ナリ」ノ一句ハ我方ニテ態々言及スル必要ナキハ勿論
支那ノ體面上ヨリスルモ面白カラス汪側ニテ何時頃對外聲明ヲ
發スルヤニ關係ナク右ノ一句ハ削除方然ルヘシトノ汪側並ニ極
機密ノ旨蓋ナリ

三帝國政府聲明中第三國關係ニ言及セル箇所ニ付テハ往電第七九
號ヲ以テ申進ノ通り「特ニ支那資源開發利用ニ關係シ榮利ノ點
心ト要求トヲ有ス」云々ノ文句ハ餘リニ露骨ニシテ面白カラサ
ル爲め總務局令新機密海軍機密一致シテ之カ削除方要キ
案ヲ有スル次第ナルニ付此ノ點重キテ御座候所望度 (了)

電信寫

2656

2656

昭和15 五二六四三 略

上海 三月二十六日午後
本省 二十六日午後

有田外務大臣

三浦總領事

第五八七號

二十五日重慶發路透社電ニ依レハ國民黨中央執監委員及候補委員計二百六十名中汪政務ニ參加セル者ハ汪精衛、馬佛海、陳公博、陳璧君、緒氏誼及傅鍾ノ六名ニ過キサルコト判明セル處本件ニ關シ國民黨當局ハ大要左ノ如キ聲明ヲ發セル趣ナリ

右數字ニ依ルモ新生國民黨ヲ代表スル旨ノ汪聲明カ如何ニ荒唐無稽ナルカラ實證シ得ヘシ更ニ中委中央派ニ參加セサルモ黨籍ヲ褫奪セラレタル者ニ滿洲國ニ走リタル恩克巴圖及蘇ニ陳公博ト新國民黨ヲ

組織シ現在之ヲ改組シテ新同協會ヲ結成セル何世相ノ二名アリ其ノ他即ニ汪派ニ投シタル者ニシテ汪ノ政策ニ不同意ヲ表明セル者モアル處殊ニ國民黨某高官カ香港ニテ陳公博ト會談セル際陳自身スラ汪ノ政策ニハ不賛成ナルモ現在汪陣營ニ投シ居ル所以ハ新政權成立ノ延引ヲ企ツルト共ニ假ニ同政府ノ樹立ヲ見ルモ極力汪ノ活動ヲ制肘シ重慶側トノ接觸ヲ保持セントスルニ在ル旨語リタル程ナリ
北京、天津、南京、漢口ヘ轉電シ香港ヘ暗送セリ

INT 384

107

INT 384

106

2656

電信案	外務省	建國」ノ文字ヲ記セル黄色三角布片ヲ之ニ添附ス」從來ノ國民黨 ヲ中心トスル支那正統政府ノ法統ヲ繼承シ南京ニ遷都スル旨宣傳 シ居ル處右ハ支那人心ノ把握及對重慶工作等國內的必要ニ基クモ ノニシテ我方モ之ヲ許容シ居ルモ國際法上ハ明ニ新政府ノ樹立ナ ルヲ以テ帝國政府トシテハ此ノ建前ヲ以テ諸般ノ問題ヲ處理スル 方針ナリ
新政府ニ對シテハ之ヲ正式承認スル前提トシテ不取敢大正六年勅		

(日本標準規格B5) 384

109

2656

大 陸 郵 政 部

次 長

調査部長

粟利智局長

歐亞局長

通商局長

條約局長

情報部長

(分類)

電信案	外務省	汪精衛ハ三月三十日新中央政府ヲ樹立シ中華民國國民政府ノ名ヲ 用ヒ國旗モ青天白日滿地紅旗ヲ襲用スルコトトナリ(但シ重慶側 トノ識別ヲ明ニスル爲軍事上ノ必要ニ基キ差當リ「反共、和平、 合 第 五九四 號 (極 祕 機 械
電信課長	發電係	新中央政府樹立一件
主管	東亞局長	昭和十五年三月二十六日起草
主任	東亞局長	有田大臣
記 録 件 名	發	

(日本標準規格B5) 384

108

2656

電 信 案	四 新 政 府 ノ 滿 洲 國 承 認 ニ 付 テ ハ 汪 兆 銘 ハ 既 ニ 承 諾 濟 ミ ノ コ ト ナ ル カ	新 政 府 ノ 承 認 促 進 ニ 付 我 方 ヨ リ 進 ン テ 申 出 ヲ 爲 ス 迄 ニ ハ 至 リ 居 ラ ス	班 牙 一 カ 承 認 ヲ 取 替 キ 居 ル モ 右 様 ノ 内 部 關 係 ア ル 爲 第 三 國 ニ 依 ル	カ 右 時 期 ハ 未 タ 具 體 的 ニ 豫 定 ス ル ヲ 得 ス 從 テ 過 般 來 伊 太 利 （ 及 西	ヲ 調 印 ス ル 時 期 ト シ 度 含 ミ ニ テ 目 下 必 要 ナ ル 事 務 手 續 進 行 中 ナ ル	三 新 政 府 ノ 正 式 承 認 ハ 特 派 大 使 カ 日 支 ノ 新 關 係 ヲ 律 ス ヘ キ 基 本 協 定	揮 官 ト ノ 關 係 ハ 絶 對 極 祕 ト セ ラ レ タ シ
-------------	--	--	---	---	---	--	---

(日本標準規格B5)

IMT 384

111

外
務
省

2656

電 信 案	令 第 六 四 號 ニ 依 ル 特 派 大 使 ヲ 派 遣 シ （ 同 大 使 ハ 慶 祝 使 節 ヲ 兼 ネ 阿 部 前 總 理 ニ 内 定 セ リ ） 興 亞 院 所 管 ノ 所 謂 協 力 業 務 ヲ 處 理 セ シ ム	ル 一 方 支 那 ニ 於 ケ ル 第 三 國 關 係 外 交 及 日 支 新 關 係 ヲ 律 ス ヘ キ 條 約	締 結 ノ 任 ニ 當 ラ シ ム ル コ ト ト シ 遲 ク ト モ 四 月 末 頃 ニ ハ 赴 任 ヲ 見 ル	豫 定 ナ リ 尙 大 使 ● 現 地 陸 海 軍 最 高 指 揮 官 ト ● 中 央 ノ 決 定 ニ	基 ク 重 要 政 策 ノ 現 地 ニ 於 ケ ル 執 行 並 治 安 事 項 ニ 關 シ 協 議 ヲ 爲 ス モ	軍 指 揮 官 ハ 大 使 ニ 對 シ 區 處 又 ハ 指 示 ヲ 爲 サ ス （ 大 使 ト 興 亞 院 及 軍 指
-------------	---	---	---	--	---	--

(日本標準規格B5)

IMT 384

110

外
務
省

REEL No. A-0722

0028

アジア歴史資料センター

2656

電 信 案	行 不 ル 課 定 ハ 以 テ 支 那 經 濟 ノ 國 復 國 稅 其 ノ 他 ノ 稅 收 ノ 増 加 ハ 以 テ 支 那 經 濟 ノ 國 復 國 稅 其 ノ 他 ノ 稅 收 ノ 増 加 ハ	他 各 種 ノ 制 限 ヲ 撤 消 シ 開 放 ヲ 先 立 メ 進 メ 揚 子 江 三 角 地 帯 ニ テ 實	以下 ハ 固 キ 進 メ ヲ 上 流 ノ 揚 子 江 ヲ 開 放 シ 通 商 貿 易 ニ 對 ス ル 其 ノ	六 斯 ル 情 況 ニ 於 テ 新 政 府 ノ 發 育 ヲ 援 助 ス ル 爲 ニ ハ 目 下 準 備 中 ノ 南 京	ノ 努 力 ヲ 要 ス ヘ シ	政 府 カ 相 當 ノ 實 力 ヲ 具 フ ル ニ ハ 同 政 府 ト シ テ モ 我 方 ト シ テ モ 多 大	關 係 ニ 於 テ 相 當 ノ 困 難 ヲ 招 來 ス ル 虞 ナ キ ニ 非 ス 之 ニ 拮 抗 ス ル 爲 新	關 係 ニ 於 テ 相 當 ノ 困 難 ヲ 招 來 ス ル 虞 ナ キ ニ 非 ス 之 ニ 拮 抗 ス ル 爲 新
-------------	--	--	--	--	--------------------------------------	---	---	---

(日本標準規格B5)

IMT 384

113

外
務
省

2656

電 信 案	是 レ 亦 手 續 上 大 体 前 記 條 約 調 印 ト 同 時 ト ナ ル 豫 定 ナ リ	五 新 政 府 ノ 願 觸 レ ハ 汪 ヲ 中 心 ト ス ル 國 民 黨 改 組 派 及 C G 團 ニ 臨 時 、	維 持 兩 政 府 要 人 ノ 一 部 ヲ 加 ヘ 一 應 整 ヒ タ ル モ （各 部 次 長 以 上 國 民	黨 員 約 六 割 ヲ 占 ム） 管 內 ノ 治 安 全 カ ラ ス 財 政 ノ 基 礎 タ ル 關 稅 ハ 法	幣 及 聯 銀 券 ニ テ 年 四 億 ニ 充 タ ス 鹽 稅 、 統 稅 ニ モ 多 ク ヲ 期 待 シ 難 ク	又 自 己 ノ 軍 隊 ヲ 有 セ サ ル ヲ 以 テ 我 方 ノ 正 式 承 認 ハ 時 期 尙 早 ニ 俛 偏	政 府 ヲ 作 リ 排 他 的 ノ ニ 之 ヲ 利 用 セ ン ト ス ト ノ 非 難 ヲ 受 ケ 第 四 國 ト ノ	政 府 ヲ 作 リ 排 他 的 ノ ニ 之 ヲ 利 用 セ ン ト ス ト ノ 非 難 ヲ 受 ケ 第 四 國 ト ノ
-------------	--	--	---	---	---	---	--	--

(日本標準規格B5)

IMT 384

112

外
務
省

REEL No. A-0722

0023

アジア歴史資料センター

2656

ニ依リ彼等ヲシテ新政府ニ同調スルノ態度ニ出テシメ、
 ニ重慶弱体化ノ効果ヲ希圖スルコトモ必要ニシテ之ニハ客年往電
 合第二八五四號ノ方針、
 スルノ要アリ、
 權益毀損ニ對スル補正ノ促進、天津租界問題調整及揚子江、珠江
 開放ノ急速實行等、
 郵局警察ノ復歸問題ハ既ニ解決済ミ、
 付交渉及準備進行中

電信案

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 384

115

2656

計リ又此等措置ニ伴テ我軍管理中ノ工場、鑛山其ノ他所謂敵産ヲ
 速ニ返還シ、
 避難民ノ救済ニ協力シ或ハ幣制ノ整理強化ヲ助クル等、
 テ善政ヲ布カシムルコトニ依リ内外人心ノ把握ニ努メ外支人ノ信
 頼ヲ高ムル方圖ヲ講スルコト緊要ニシテ右ハ特派大使ノ一重要任
 務ヲナス次第ナリ
 七尙右ト並行シ日本及新政府ノ對第三國關係調整其ノ他ノ外交施策

電信案

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 384

114

REEL No. A-0722

0030

アジア歴史資料センター

2656									
電 信 案	外 務 省	スルモ九國條約關係諸列強トノ間ニ相當ノ摩擦ヲ生スヘキハ明カ ナリト其ノ内最モ困難ナルヘキハ米國トノ關係ナル處支那ニ於ケ ル關係列國ノ權益ハ共通ナルニ付我方トシテハ處理シ易キ國ヨリ 權益問題ノ解決ヲ計ルコト肝要ニシテ此ノ見地ヨリスレハ英佛諸 ト國交調整ノ談合ヲ進ムルコト便ナリト思考シ居ルリ尙伊國ハ帝 國ノ東亞新秩序建設ニ積極的ニ同調スルノ態度ヲ示シ居ルヲ以テ 之ヲ善用スルトキハ九國條約關係ノ多數列國間ニ相當ノ協調ヲ保							
		要アリト考ヘ居レリ							
		次ニ新政府カ支那ノ新秩序ヲ標榜スル以上其ノ程度ノ厚薄ハ別ト							
		ミ日蘇懸案ヲ解決シ同國トノ關係カ是以上惡化セサル如クスルノ							
		ト共ニ蘇聯カ目下其ノ主タル關心ヲ歐洲方面ニ有スル事情ニモ鑑							
		汪政權ノ防共方針ハ差當リ成ルヲ國內政治方面ニ限局セシムル							
		サル關係生スルコトアルヘキハ豫想ニ難カラス就テハ我方トシテ							
		作ニ關シ第一新政府カ防共ヲ標榜スル以上蘇聯トノ間ニ釋然タラ							
		IMT 384 117							
		(日本標準規格B5)							

2656									
電 信 案	外 務 省	スルモ九國條約關係諸列強トノ間ニ相當ノ摩擦ヲ生スヘキハ明カ ナリト其ノ内最モ困難ナルヘキハ米國トノ關係ナル處支那ニ於ケ ル關係列國ノ權益ハ共通ナルニ付我方トシテハ處理シ易キ國ヨリ 權益問題ノ解決ヲ計ルコト肝要ニシテ此ノ見地ヨリスレハ英佛諸 ト國交調整ノ談合ヲ進ムルコト便ナリト思考シ居ルリ尙伊國ハ帝 國ノ東亞新秩序建設ニ積極的ニ同調スルノ態度ヲ示シ居ルヲ以テ 之ヲ善用スルトキハ九國條約關係ノ多數列國間ニ相當ノ協調ヲ保							
		要アリト考ヘ居レリ							
		次ニ新政府カ支那ノ新秩序ヲ標榜スル以上其ノ程度ノ厚薄ハ別ト							
		ミ日蘇懸案ヲ解決シ同國トノ關係カ是以上惡化セサル如クスルノ							
		ト共ニ蘇聯カ目下其ノ主タル關心ヲ歐洲方面ニ有スル事情ニモ鑑							
		汪政權ノ防共方針ハ差當リ成ルヲ國內政治方面ニ限局セシムル							
		サル關係生スルコトアルヘキハ豫想ニ難カラス就テハ我方トシテ							
		作ニ關シ第一新政府カ防共ヲ標榜スル以上蘇聯トノ間ニ釋然タラ							
		IMT 384 116							
		(日本標準規格B5)							

2656

電信案

又支那實業界、財界ノ新政府ニ對スル協力モ逐次實現スヘキ可能
ク考ヘニシテ其ノ上ハ重慶部内ノ要人ノ脱出、中央軍中ノ寢返リ
新政府ハ不取敢南京、上海ニ其ノ實力ヲ扶植スルコトニ重點ヲ置
與ヘス日米關係ノ惡化ヲ防止スヘキモノト思考セラル

佛其他ニ對シテモ同様ノ態度ヲ以テ臨ミ對英佛關係ノ再開ト共ニ
對「ソ」關係ノ緩和ヲ計リ、依リ米國ニ極端ナル發言ノ機會ヲ
(此等措置ハ必スシモ特定國殊ニ米國ノミヲ對象トセズ寧ロ英

(日本標準規格B5)

IMT 384

119

外務省

2656

電信案

チ得ル譯ニテ一平方米國ニ對シテモ支那ニ於ケル諸懸案ノ解決ニ依
リ現在以上我方トノ關係ノ惡化ヲ避クルニ努ムルトキハ日米關係
ノ最惡化ヲ防キ得ルヤニ思考シ居レリ

(日本標準規格B5)

IMT 384

118

外務省

REEL No. A-0722

0032

アジア歴史資料センター

電信係注
青島
系統ノ異
スル毎密
改訂上同文
ヲ其書ナリ
不取
セリ

2656

電信案	ヲ排除スル要ナキモノト考ヘ居レリ御含ミ迄
外務省	本電宛先 佛、独、米、香港、北京
	上海、天津、青島、南京、滿
	佛、英、印、白土、獨、蘇、蘭
	松、雪、アリ、タシ

(日本標準規格B5)

IMT 384

121

2656

電信案	性アル處右ハ相當ノ時日ヲ要シ從テ事變ノ速急解決ハ先ツ望マレ
外務省	サルヲ以テ我方トシテハ之ニ對應スル國內態勢ヲ整フルト共ニ重
	慶ニ對スル軍事行動ヲ攻撃的態勢ニ置クコト必要ニシテ斯クテコ
	ソ重慶ノ崩壊工作モ其ノ時期ヲ早ムルモノト觀察セラレ此ノ際早
	急ニ重慶ニ對シ何等施策ヲナスコトハ絕對禁物ナルカ時機熟スル
	ニ伴ヒ適當ノ方法ニ依リ新政府ト共同シテ重慶ニ働キ掛ケ又ハ第
	三國カ重慶ニ對シ自發的ニ和平ノ勸告ヲ爲ス様仕向クルコトハ之

(日本標準規格B5)

IMT 384

120

REEL No. A-0722

0033

アジア歴史資料センター

[illegible]

昭和十五年一月十日現在

[illegible]

在 外 公 館 表
昭和 年 月 日附
普通密合第 號
(總數 一五五)